

B-51 衛生加工紙の実際応用に関する研究 クロールキシジン加工紙ナプキンの皮膚に及ぼす影響について
東京家政学院短大 ○吉田玲子， 関東逓信病院 稲福盛栄

目的 予防衛生的見地及び使い捨てるの簡便さから、衛生加工紙（紙おむつ、紙ナプキン）の利用量が増加している。

前回、ニトロフラン加工紙ナプキンの皮膚に及ぼす影響について報告したが、今回は、ニトロフラン加工紙同様、加工効果（細菌の発育阻止効果）があると認めたクロールキシジン加工紙ナプキンを取り上げ、実際応用に際して、加工剤の皮膚に及ぼす影響について検討した。

方法 病院で出生した新生児をA、B 2群に分ち、出生直後より退院まで下記の要領でおむつを使用し、その間における臀部発赤の発生状況を比較検討した。

A群—布製おむつの上に加工紙ナプキンを重ねて使用する（374名）

B群—布製おむつのみを使用する（308名）

結果 昭和46年8月より昭和47年3月までおこなった結果、臀部発赤の発生率は、A群37.43%、B群29.55%であった。2群間における差は、昭和46年9月（臀部発赤発生率、A群59.2%、B群37.2%）において有意と認められたが、その他の月においては有意の差は認められなかった。

また、臀部発赤発生率と湿度との関連について検討したところ、有意の相関が認められた。